

『草津節』を踊ろう



1 くさつよい
足を揃えて立ち
手拍子を3回とる



2 と
胸の前で
両手を合わせ、
ひじを張る



3 こ
草津の湯を
指さす



4 いちごは
手をかざして
人を3回招く



5 おいで
中腰になり
両手を肩におく
(たすきをかける振り)



6 ぶつこいよ
ひざを伸ばして立ち
帯に目をやる



7 お湯のな
両手を胸の前から
左右に開いて、
手打ち1回



8 がにもつりや
ひざを折り、
腰を低くして
湯を左より
3回かきまわす



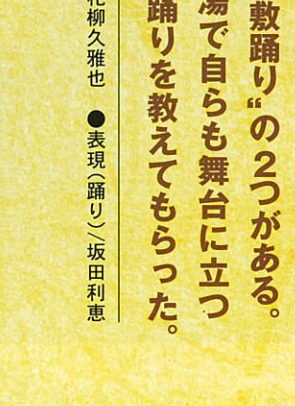
9 花
上体を起こし、
手をかざして
正面をキッと見る



10 ガ
両手を左右に振る



11 さ
顔の前で
チョンと拍手し



12 く
右手をおろして
右手で左ひざを打ち



13 よ
同様に左手で
左ひざを打ち



14 チョイナ
チョイナ
チョンと
拍子を5回打つ

●振付(花柳栄久芳) ●按舞(指導)花柳久雅也 ●表現(踊り)坂田利恵
『草津節』は盆踊りなどで踊る大衆的な「輪踊り」と座敷や舞台で踊る「座敷踊り」の2つがある。踊りの指導をし、熱の湯で自らも舞台に立つ花柳久雅也さんに座敷踊りを教えてもらった。

「チョイナ チョイナ」で全国に広まった『草津節』

冬の気候が厳しい草津温泉は、かつては10月9日から4月7日まで宿の営業を止め、全員が里へ降りて冬をやり過ごした。これを「冬住み」といった。そのため草津に根付いた唄が生まれることはむずかしかった。そんな中、明治30年生まれの花柳「たけじ」(大島たみ)は、「チョイナ チョイナ」と囃す湯治客の唄を耳にし、それを整理して三味線にのせた。これが「草津節」の始まりという。最初の踊りは「たけじ」が振り付けをしたが、後に藤蔭静枝が手を加えた。現在の座敷踊りは花柳栄久芳が時代に合わせ、さらに手直しをしたものである(『草津温泉誌』)。

草津節に加えて「草津湯もみ唄」「草津小唄」の3つを総じて湯もみ唄といひ、草津温泉を代表する民謡となっている。ちなみに草津小唄は相馬御風作詞・中山晋平作曲で昭和3年に作られた新しい民謡である。